

ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト (JICA/DPUB)

ニュースレター第28号 2019.07



この度、遅ればせながら当プロジェクトのロゴを作成しました！なぜ今か、というと、第4回アジア太平洋CBID会合の開催にあたり、当プロジェクトの広報の絶好のタイミングだからです。これを機

にさらに多くの人に障害の社会モデルを進めるDPUBの取り組みを知ってもらいたいと思っています。このロゴにはDPUBカラーとして紫を採用しています。紫色は、赤と青の混色で、様々な人たちの協働を進めるインクルーシブを意味しています。また背景には、障害平等研修 (DET) の箱と星の場面を採用し、多様性を表しています。この新しいDPUBロゴに馴染んでいただくと幸いです。

物理アクセシビリティ改善・本邦研修 (名古屋) (2019.06.05)



DPUB開始直後から取り組んできたウランバートル市のバリアフリー化が、いよいよ本格的なモードに入ってきました。これまで、モンゴル国内で障害者参加型のアクセス監査の方法を教えたり、行政

機関のアクセス調査を実施し提言書を提出したり、また法律や政策、アクセス基準を見直したりと様々な活動を実施してきましたが、今回はそのまとめとして、日本でバリアフリーがどのように進んだか、その歴史や方法を学びます。具体的には、法律と基準、許認可制度と監査制度について学び、モンゴルに持ち帰る予定です。そのため今回の参加者は、建設省、運輸省はもちろん、建設開発センターや交通開発センター、労働社会保障省、障害者開発庁、行政監査庁、大学教授などを始め、障害者団体からも3名参加頂いています。これらの参加者が一体となり、設計図からバリアフリーを確保し、実際の建築物までバリアフリーにすることを目指しています。街のバリアフリー化は、なにも障害者のためだけではありません。高齢者や妊婦の方、子連れの夫婦や旅行者、重い荷物を運ぶ人など、様々な人に裨益し、モンゴルでも多くの人にとって便利になったと実感できることでしょう。この研修が、10年後のモンゴルを造ると信じてこれから2週間研修に励みます。

モンゴル初の国際会議、より良い会議にするためには？

(2019.06.17)

7月に開催される「地域に根ざしたインクルーシブ開発 (CBID)」アジア太平洋会議。モンゴルで初めての障害に関する国際会議です。国内外から多くの障害分野の関係者が参加する会議に向けて、100名を超えるボランティアチームが発足。送迎や受付、会場案内など、「モンゴルの顔」として、大学生を中心に高校生から社会人まで、若い人材の活躍が期待されています。先日、ボランティアを対象に障害に関する研修を開催。「より良い会議にするために、自分達にできること」を話し合いました。「必要なサポートができるよう、まずは声をかけるようにしたい」、「障害種別のサポート方法を習得したい」と皆熱心に学んでいました。



サポート方法を学んでいるボランティア



研修員の皆さん

物理アクセシビリティ改善・本邦研修レポート②

2019.06.06

本研修も2日目を迎えました。午前中は、国土交通省から国のバリアフリー施策を中部地方でどのように実施しているか、施策の内容と具体的な活動について講義頂きました。重要な点は、バリアフリーは社会の高齢化とともに進んできたこと、国と自治体がうまく連携して取り組む仕組みがあること、またものだけでなく、心のバリアフリーを進めていることなどでした。バリアフリーの重要性を実感するため、車椅子や視覚障害者体験も行いました。午後は今回の研修を実施してくれている「AJU 自立の家」を訪問し、モンゴルのバリアフリーに向けたディスカッションを行いました。AJUさんは、名古屋を中心に行政と連携してバリアフリーを進めてきた団体です。障害者の参加、障害者の意見をきちんと行政に届けることの重要性を指摘頂きました。同時にモンゴルのバリアフリーの現状をお話し、様々な助言を頂きました。これから2週間、しっかりと日本の事例を勉強したいと思います。



車椅子や視覚障害者体験の様子



JICA DPUBのFACEBOOKページに

「いいね」をお願いします。

おかげさまで、今ではページの「いいね」が**5117件**に達し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。

障害国別情報



千葉チーフアドバイザー

出張や研修を通し、障害者と情報技術に関する情報だけでなく、障害に関する多くの情報がAPCDに集まってくるようになりました。そこでAPCDのもう一つの活動である、障害情報センターとしての機能を促進しようと思いました。当時、アジア太平洋地域の途上国の障害者に関する情報は非常に限られており、国際機関でさえも、十分な情報を持ち合わせていませんでした。そこでAPCDは、これまで集めた情報を国別に分け、「アジア太平洋障害者の10年」の12の目標に合わせて整理し、ウェブサイトで公開することにしました。これが「障害国別情報」です。各国の情報が課題別に整理されているので非常に好評で、国連でも高く評価されました。国別情報を掲載してから、ウェブサイトへのアクセス数が飛躍的に増加したことも覚えています。最終的に、24カ国の国別情報をまとめたことで、APCDは障害情報センターとしても機能するようになったと思います。

DPUB連絡先

Office: Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection
Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook: <https://www.facebook.com/jicadpub>

Website: <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

E-mail: dpub.jica@gmail.com